

言葉のあや織り

※しろしめす

なにかしら
ア・エ・イ・オ・ウンに吹かれ
はてのない
さいこ文字

記号型のアメーバ
ではない…かしら

こどくに握手し
親しくりべつし

その したい

なもなく
いみなく
リズムなく

…
永遠に うまれまぎわ
の
なにかしら

ダダであったり
ヤヤであったり
…

光の太刀と
闇の薄膜に
裏返るまなざし

なにかしら
触発する臨界 生殖する異物

稲妻のように はなよめのように
おもふせ しずしずる 液体火薬

水面のキラメキ掃き清め
ことばなく はたかしましく
乱れうちくるい

狙撃する

偏頭痛

ゆらゆらぐ

めまい

の、兆（きざし）

：

の、ような

（ア（||阿…始まり）||宇宙が生じる瞬間・誕生、エ||凝縮・形成、イ||成長・育成、オ||森羅万象の開花・愛、ウン（||咩…宇宙が収縮し種子となる）混沌・無。）

※はださわり

砂の王国 (ラジャスターン)
サンドペーパーで※をけずる
ジョワリ ジョワジョワ
ラクダの骨 きしみ

(王様の国という意
味のインドの州) …なくともよい
(※たとえば…音、月の弦など)
(ジョワリ||ビリつき音を出すシタ
ールの機構。ここでは意味不明)

楽土の王女 (サラスヴァティー)
馬のシッポで※をくすぐる
ジャイジャヤ サリサラ
地下井戸の せせらぐ

(音楽 芸術 豊穡の女神で流
れるものの象徴とされる) …なくともよい
(※たとえば…ことば、韻など)
(ジャイ/ジャヤ||奉る時の祝詞。サリサ
ラ||サリーの更紗。ここでは意味不明)

水の王国 (やまとの山と野) ○ …なくともよい
洞窟の滴りで※を穿つ
ピトン ポッピン
水琴の 身もだえて

(※たとえば…夢、真昼の闇など)
(ピトン||ロッククライミングの道具)
(ハーケンのこと。ここでは意味不明)

ハチの女王 (ビーズ・ヴィーナ)
兵士率いて※を刺す
武運云々
触角の研ぎ澄まされ

…なくともよい
(※たとえば…愛、蛇の目など)

雲の龍王 (ナーダ龍樹那)
八重衣引きずり※をすり
微韻陰々
逆鱗のさわり

(ナーダ||「音」の意をも
ち、梵天の声とされる)
(※たとえば…空、虹の橋)
(さわり||ビリつき音を出す琵琶
の機構。ここでは意味不明)

八雲立つ

出雲八重垣

稲田姫

八重垣作る

彼我の八重垣

（稲田姫 || 須左之男
命の妃 櫛名田姫）

本歌

八雲立つ

出雲八重垣

妻ごみに

八重垣作る

その八重垣を

※の きざし

きぬ

その

はださわり

※ノンしやらん

鬼気くるし

記紀のミカド

けまりも たまなし

天の地の

中有を 有情し

天津事の端

茶毘に 付し

野辺たなびくけむり

曼荼羅に てごめする

もとより地から 昇ったものを

天津言の葉と

歌仙達に 御下誼賜り

歌姫は 青龍に嫁ぎ

天かけ上(のぼ)り

いかづち稲妻

雲の地のと 行き来(こ)しおり

稲田姫わたしの

田の実を 蕩(とろ)かす

ワシは 真也言

一子相伝 頼みとせず

清流に沐浴するより

泥田の泥鱸掬いに あそび

天津言の葉

余す事の端なく 蚕食し

抒情をも漉いて

死出虫 黄泉に追いやる

詠み人 しらず
無言の書記

歌詠みより掬いし 姫（よめ）の
つつ井づつに 色香ぬき

姫殺し
無情にきぬ奪い

生沼に
秋のきぬ晒し 裂き織り

田子作野良着
夏涼しく冬さらに涼し

言の外（ほか）に
有情する穂かなし

田の実の

中あれば 外あり
表あれば 裏あり

心あれば 縁あり
宴あれば 喻あり

穩あれば 現あり
韻あれば 聯あり

型あれば 象あり
像あれば 想あり

無たれば 死に不安あり

不立文字？
以心伝心？

（テテテテ てん）

※の巡礼
しやらんしやらん
のんシヤラン

（たとえば雨、天、空、
音、言葉、真理、宇宙）

※みだりみだるみだ

わがいつも 佩ける太刀………

みだり さみ猛け
みだる あはひ か

みなし ごと

みだり ざわめき
みだる 草薙の劍 か

療原のほのほ 払い断ち

みだり 赤線地帯
みだる 太刀古舞い か

さみし 涅槃（ニルバーナ）

みだり 色あはず
みだる 刀自の貽貝 か

わが弥陀 二荒の御前 劍宮

みだり さみ猛け
みだる 闍伽（あか）の漉 か

ゆみなし 起句門付けし五連絶句